

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 教科に関する調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則
- (3) 出題内容：「知識」と「活用」の2種類の問題を出題

主として「知識」を問う 国語A、算数A、数学A	主として「活用」を問う 国語B、算数B、数学B
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

※理科については、「知識」の問題では、理科に関する「知識・技能」を、「活用」の問題では、理解に関する知識・技能の「適用、分析、構想、改善」を主な枠組みとして位置付けて出題されている。

3 質問紙調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査日

平成30年4月17日（火）

5 平戸市の調査実施校及び児童生徒数

(1) 実施校数

小学校 15校 中学校 9校 計 24校

(2) 参加児童生徒数

小学校6年生	253人
中学校3年生	247人

II 平戸市の結果の概要

1 平均正答率の全国との比較

校種	小学校				中学校					
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
領域	A	B	A	B		A	B	A	B	
結果										

※結果「+」…平戸市の平均正答率が全国平均正答率以上のもの

[平成30年度は、平戸市の平均正答率が全国平均正答率以上の教科はありません。]

※領域「A」…主として知識に関する問題 「B」…主として活用に関する問題

<結果の総括>

全国平均を超えた教科はないが、昨年度に比べて小学算数Bにおいて改善が見られる。領域別に見ると、小学校では、算数はA「量と測定」において全国平均を上回っている。中学校では、全国平均を上回っている領域はない。今年度は数学ABにかなりの落ち込みが見られ、特に「関数」「資料の活用」に課題がある。

また、理科については、3年前に比べて小学校でかなりの改善が見られる。

2 各教科別の成果と課題及び改善策

【小学校】

教科・領域	成果 (○) 課題 (●) [設問番号] 改善策 (※)
国語A	○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと [1] ○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと (心を打たれる) [6] ●漢字を文の中で正しく使うこと (積極的) [8才] ※新出漢字の学習をするだけでなく、家庭学習等で同音異義語や対義語などの課題を定期的に位置付け、繰り返し学習することによって語彙力の向上を図る。 ●文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと [5] ※適宜文法問題を取り上げ、主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせたり、文の構成について指導したりする。

<p>国語B</p>	<p>○話し手の意図を捉えること〔1一〕 ○計画的に話合うために、司会の役割について捉える。〔1二〕 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること〔1三〕 ※相手の話の内容を十分聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどをメモに整理し、自分考えをまとめるよう指導する。 ●目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。〔2二〕 ※作文指導の際、メモのどの事柄を選択すると自分の言いたい内容の中心が明確にできるのかを考えさせる。</p>
<p>算数A</p>	<p>○角の大きさを理解すること〔5（1）〕 ○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること〔4（1）〕 ●小数の除法の意味について理解すること〔2〕 ※除数が1より小さい小数の除法の意味について、問題文を数直線などで表し、1に当たる大きさを求めるために除法が用いられることを理解させる。 ●円周率の意味について理解すること〔7（1）〕 ※幾つかの円の直径の長さや円周の長さを測定する活動を仕組み、どのような大きさの円についても、円周の直径に対する割合（円周率）が一定であることを理解させる。また、直径、円周、円周率の関係についても理解させる。</p>
<p>算数B</p>	<p>○合同な三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすこと〔1（1）〕 ○折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断すること〔5（2）〕 ●棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断すること〔3（2）〕 ※棒グラフや帯グラフをかくだけでなく、そこから読み取れることを問題づくりなどを通して理解させる。 ●メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述すること〔3（1）〕 ※情報を収集し表やグラフに整理したり、表やグラフから読み取れることを記述したりする活動を仕組むことで、情報とグラフを関連付けて解釈することができるようにする。</p>
<p>理科</p>	<p>○より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察すること〔4（2）〕 ○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること〔2（1）〕 ●実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述</p>

	<p>すること〔4〕(4)〕</p> <p>※一般化した規則性を導き出すために、1つの事物で見られた現象だけでなく、複数の事物で見られた現象で検討することが求められることや、信頼性を高めるために、実験を複数の方法で複数回行うことが重要であることを指導する。</p> <p>●より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること〔2〕(3)〕</p> <p>※大雨が降ったときの地面の削られ方について考察する場を設定することにより、長雨や集中豪雨がもたらす川の増水の危険性について理解させる。</p>
--	--

【中学校】

教科・領域	成果(○)と課題(●)及び改善策(※)
国語A	<p>○文脈に即して漢字を正しく読むこと(凍る、磨く)〔8〕二23〕</p> <p>○慣用句の意味を理解すること(心を打たれる)〔8〕四1〕</p> <p>●語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと〔8〕三エ〕</p> <p>※新出漢字や未習の語句の意味を調べるだけでなく、文脈の中で適切に使うことができるように、その語句を使った文作りを位置付ける。</p> <p>●目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと〔8〕四2〕</p> <p>※小学校同様、適宜文法問題を取り上げ、主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせたり、文の構成について指導したりする。</p>
国語B	<p>○話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること〔2〕二〕</p> <p>○質問の意図を捉えること〔2〕一〕</p> <p>●全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと〔2〕三〕</p> <p>※相手の話を聞きながら自分の考えを整理する力をつけるために、必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりする場面を仕組む。</p> <p>●目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと〔1〕三〕</p> <p>※文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、自分の考えをまとめる活動を仕組む。</p>
数学A	<p>○数直線上に示された負の整数を読み取ること〔1〕(1)〕</p> <p>○簡単な比例式を解くこと〔3〕(2)〕</p> <p>●多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること〔15〕(1)〕</p> <p>※ある試行を多数回繰り返したとき、全体の試行回数に対するある事象の起こる回数の割合は、ある一定の値に近づくことを様々な事例から理解させる。</p> <p>●一次関数について、xの増加に伴うyの増加量を求めること〔11〕(1)〕</p>

	<p>※関数の意味を理解できるようにするために、事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を取り入れる。</p>
数学B	<p>○問題場面における考察の対象を明確に捉えること〔2〕(1)〕</p> <p>○グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること〔3〕(2)〕</p> <p>●与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること〔5〕(1)〕</p> <p>※与えられた情報を読み、必要な情報を適切に選択したり、数学的な結果を事象に即して解釈したりする場面を設定する。</p> <p>●計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明すること〔5〕(2)〕</p> <p>※与えられた情報を読み、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する場面を設定する。</p>
理科	<p>○豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘すること〔6〕(3)〕</p> <p>○初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用すること〔7〕(3)〕</p> <p>●風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技術を活用すること〔3〕(1)〕</p> <p>※台風に関する複数の情報を基に、風向を上空からの視点と観測地点における視点で捉えさせる。</p> <p>●植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること〔9〕(2)〕</p> <p>※新たな実験を計画する際には、前の実験の結果を方法も含めて分析して解釈し、原因として考えられる要因をすべて挙げ、それらの妥当性を検討することが大切であることを指導する。</p>

3 児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴（全国の割合との比較）

（○：高い状況 ●：低い状況）

【児童】

- 毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が多い。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童の割合が多い。
- 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする児童の割合が多い。
- 家で、自分で計画を立てて勉強したり、学校の授業の予習復習をしている児童が少ない。
- 学校の授業以外の1日の学習時間が少ない。

- 算数Bの問題において「調査問題の解答時間が不足している」と答える児童の割合が多い。

【生徒】

- 毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする生徒の割合が多い。
- 学校の授業以外の1日の学習時間が少ない。
- 学校の規則を守っている生徒の割合が少ない。
- 数学の勉強が好きな生徒の割合が少ない。
- 全ての教科において「調査問題の解答時間が不足している」と答える生徒の割合が多い。

Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握
※全国学力学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会（管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会、初任者研修会等）における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施
※大型デジタルテレビ、タブレットPC、電子黒板、実物投影機
デジタル教科書の活用等
- 5 学力向上会議の開催とそれを受けての各学校への指導